

公明党議員団視察報告書

2021年12月24日

貝塚市議会議員 谷口美保子殿

参加者 北尾 修
中山 敏数
谷口美保子

■視察 1日目

日時 令和3年12月16日(木) 午後1時～3時

場所 雲仙市 ■「TUYOSHI FLOWER」

■一般社団法人「馬と人の環」

- 1、面談者 TUYOSIFLOWER 浜塚様
一般社団法人「馬と人の環」 管理者 山口様
- 2、視察事項「農福連携事業」の状況について

【取組み状況】

まず、「TUYOSHI FLOWER」浜塚様が経営されている、カーネーションの倉庫に訪問し、レインボーカーネーションの説明を受けました。

浜塚様の経歴

◆農業者大学を卒業後、平成23年～27年まで長崎県カーネーション品評会で5年連続金賞を受賞

◆平成28年、30年は同品評会で農林水産大臣賞を受賞

◆平成31年には全国カーネーション品評会で金賞ならびに農林水産大臣賞を受賞

◆令和1年 農福連携事業開始

花弁（かき）生産者である浜塚さんの思いとしては

- ① 所得の向上
- ② 国内産カーネーションの質・品質の向上
- ③ 心に秘めた「好奇心」

の三つを挙げ、オンリーワンを追求したいと日々奮闘されておられます。

その後、実際にレインボーカーネーションの色染めをしている、一般社団法人「馬と人の環」就労継続支援B型事業所「トアルク」に移動し、管理者の山口様に



説明を受けました。

福祉提供者の山口様の思いとしては

- ① アウトドア×インドアを含め「選べる就労」
- ② 福祉の視点での限界
- ③ クリエイティブな働き方

の三つを掲げ、利用者の思いを出来るだけ叶えたいとおもいで取り組んでおられます。

そして、就業されている障がい者に対しては

- ① 工賃の向上
- ② 癒されながら働く
- ③ 雇用に充実

を掲げ、自己評価の塗り替えが出来るよう取り組みをされておられます。

そのような背景から、花卉（かき）生産者からなるネットワークを形成し、その中心に就労継続支援B型事業所「トアルク」を置き、農福連携事業に取り組まれるようになりました。

農福連携の中で、この取り組みがなければ、知ることがなかった出来事や感動がたくさんあったそうです。

「感謝」で繋ぐ農福連携の環

雲仙市の過去13年の障がい者推移をみると、全人口は減少するなかで、身体・知的障がいの方は、ほぼ横ばいであるのに対し、精神障がいの方は、ほぼ20倍に増加している。

このような背景から、障がい者のための雇用をいかに充実させていくかが重要であるとの思いから、障がい者就労事業を中心に置き、市内の同業者とネットワークを形成されました。

本市としても、雲仙市と同様に人口が減少するなかで、障がい者の方が増加傾向にあると思います。

幸い本市にも数多くの農産物が生産されていますので、生産者の連携の中で障がい者事業と連携し、農福連携の環を広げ、障がい者の方が住みやすい貝塚を目指して、雲仙市の事業を参考に取り組んでいきたいと思えます。



■視察 2日目

日時 令和3年12月17日(金) 午前11時～12時

場所 雲仙市 ■小浜温泉バイナリー発電

1、面談者 雲仙市環境水道部 新エネルギー推進班
参事補 佐々木様 森様

2、視察事項「バイナリー発電」について

雲仙市公明党市議会の平野議員の紹介で、小浜温泉バイナリー発電所の施設見学をさせていただきました。



小浜温泉はマグマ溜りに近い場所に位置しており、高温で豊富な湯量を誇っています。27ヶ所ある源泉からは、泉温100℃の温泉が一日あたり15,000t（625t/時）湧き出していますがその70%以上が未使用のまま海へ排出されています。小浜温泉バイナリー発電所は、この未利用エネルギーの有効活用を目的として2013年4月に設置され、環境省の実証事業ののち、シン・エナジー（旧洗陽電機）が買い取り、2015年9月に事業化されました。

これまで、未利用だった100℃前後の温泉域からのエネルギー回収および有効利用による“省エネ”と、再生可能エネルギーから発電することによる“創エネ”での地域貢献が期待されています。

【主なポイント】

① 環境にやさしい！

温泉水の熱を利用するため、CO₂を発生しない、環境にクリーンな発電方法

② 未利用温泉水の有効活用！

これまで未利用となっていた温泉熱を有効活用することにより発電しています

③ 大規模な地熱発電に比べて建設費用が安価！

新たに井戸を掘削する必要がなく、小規模から発電が可能なので、建設費を安価にすることができる

④ 安定的に発電！

太陽光発電、風力発電のように天候や気候の影響を受けることが少なく、24時間安定した発電が可能



(4) 助成額：対象経費の5分の4と（対象経費－収入金）を比較した時の少ない額（上限40万円）全体の年間予算額：200万円

(5) 申請方法：「なんでんかんでんチャレンジ40助成金事業説明シート」に記入し、申請
審査方法：審査委員6人（職員3人、報道機関2人、市観光コンベンション協会1人）
の審査項目別採点による

【事業の効果】

- ・行政が着手できないような事業を市民自ら実施し、活気ある賑わいを作り出した
- ・市民団体の活動がさらに大きく前進するきっかけづくりになった
- ・資金助成による魅力ある事業の実施ができた
- ・地域へ明るい話題を提供できた

（参加人数）

令和元年度 10,081人（他に成果物1,500冊）

令和2年度 1,510人

令和3年度 4,301人（他に成果物500冊）

人が集うことで、にぎわいが生まれ、市民等の交流、経済の交流が進むことで、市民及び市内全体の活力の向上につながっている

【感想】

「なんでんかんでんチャレンジ」とは、何でもかんでもチャレンジしようという意味で、市民にまちづくりの推進を図って頂く取組みです。市民自ら、自主的な活動を進めて頂くことを、市が助成金を補助することで推進しています。市のまちづくりを進めていく上で、面白い取組みだと思います。大変参考になりましたし、本市でも取り入れていければよいと思います。

■視察2日目

道の駅「長崎街道鈴田峠」 長崎県大村市中里町452-22

大村空港近く大村市の南の玄関口として開設される

施設内には、情報発信スペースと飲食スペースを備え、観光パンフレットや映像を使った各種情報と飲食を楽しみながらくつろげる空間を提供している。

長崎街道は、長崎から小倉に至る全長57里（約228km）の江戸時代の街道で、長崎に入ってきた西洋文化は、この街道から大坂・京都、江戸へ伝わりました。この鈴田峠はシーボルトも歩いた道だという事です。

市内の観光スポットへ、車でスムーズにアクセス出来、四季折々の自然風景などを楽しめる場所となっている。

【感想】

パン屋、レストラン、地場産農作物販売所等も併設されており充実した施設と感じました。今は観光バスのお客さんは少ないそうですが、地元の方は結構利用されているとの事でした。本市にもこのような道の駅の開設が必要ではないかと感じました。